

道徳と宗教・洗礼者ヨハネの誕生



今日、私たちは、洗礼者ヨハネの誕生をお祝いします。洗礼者ヨハネについては、預言者イザヤの書にこう書かれています。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ』」と。

道と聞いて、何を思い浮かべるでしょう。例えば、シカゴの町に出るにも、地図を開いてどの道を通れば一番早く着くかを調べて車を走らせます。その際、イリノイ州の道路交通法に従わなければなりません。この「道」は、ある種の秩序、規則、法などを示しています。

車とガソリンがあれば、遠く離れた土地を目指すこともさほど難しいことはありません。しかし、日常生活の中で本当の幸福をもたらす真の目的地にたどり着くことは、車であちらこちらに行くようにたやすいものではありません。なぜなら私たちは、日常的なものとは違う、道徳的な規則に従わなければならないからです。

この道徳律は、約束された幸福に人を導く一方、神と神の愛に背こうとする悪への道から人を遠ざけようとするものです。道徳律をこのように定義してしまえば、物事がすっきりするかに見えますが現実の日常生活で、具体的な事例に道徳律を適用させるのは簡単ではありません。ここで問いが発せられます。「私たちの心に刻まれた、神との契約の一部である神の掟（十戒）は、私たち一人一人が、また社会全体が日常的になさねばならない判断を、はっきり規定することができるのだろうか」と。掟を無視しながら、神に従い、神と隣人を愛することは、いったい可能なのでしょうか。

道徳の問題は時として複雑なものです。でも、私たちがこの地球上に生きている限り、いくつかの基本的な問題から逃れることはできません。例えば「私は何をなすべきか」、「善と悪をどう区別すればよいのか」といった問題です。その答えは、人の魂の奥深くから輝きを放つ真実から引き出されるのです。

そのことを詩編の著者が語っています。「恵みを示す者があろうかと、多くの人は問います。神よ、あなたの顔の光を私たちの上に照らしてください」。

そして、この神の顔の光は、目には見えない神の似姿であり、神の栄光を現すイエス・キリストにその美しさを際立たせます。イエスは道であり、真実であり、そして命なのです。ですから、特に宗教的、道徳的な質問に対する決定的な答えは、イエス・キリストによって与えられます。その答えはイエスご自身にあるのです。

「先生、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」

マタイによる福音書19章に出てくるイエスと金持ちの青年との対話は、イエスの道徳についての教えを、効果的かつ直接的に聞くことができます。「さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。『先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。』イエスは言われた。『なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。』男が『どの掟ですか』と尋ねると、イエスは言われた。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』と。そこで、この青年は言った。『そういうことは皆、守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。』イエスは言われた。『もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。』」

人は誰でも、意識的であろうとなかろうと、救い主であるイエスに近づけば道徳について尋ねるものだというのを、この青年に見ることができます。青年がイエスに尋ねたことは、従うべき規則についてではなく、生きる意味そのものでした。事実それは、人が物事の決定や行動するときの核心となる向上心のようなものであり、静かな探究心であり、また自由な振る舞いへの内側からの衝動でもあります。そして、青年の問いは結果的に、私たちを引きつけてやまない絶対的な善を追い求めていることを表しています。それはまた、人の命の始まりと終わりである神からの呼びかけに答えるものです。ですから、善について問うことは、結局のところ、善に満ちた神に向かうことなのです。イエスは青年の問いがまさに宗教的なものであることを示され、人を引きつけると同時に恩恵をもたらす善が神から出ているものであり、神そのものであることを示されたのです。

神ご自身は、人が心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽して愛すべき方です。そして、人の幸福の根源です。イエスは道徳的な善い行いについての問いが、宗教的なものであると同時に、神ご自身が善であり、命に満ちた方であり、人の行動の最終目的であるとされました。イエスは青年に話されます。「もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」 このように永遠の命と神の掟を守ることは密接な関係があります。神の掟は人に命への道を示し、導きます。イエスご自身が掟についてはっきり確認され、掟が道であり、救いへの条件であることを私たちに示されています。

掟はある約束につながっています。旧約聖書でなされた約束は、土地の所有についてのもので、その土地で人々は自由にまた正義に基づいて生活することができます。そして新しい契約でなされた約束は天の国です。この天の国こそが、神の命にあずかること、すなわち「永遠の命」として表わされているのです。

今日の聖人である洗礼者ヨハネは、キリストが来られる前に、神の掟の完全な遂行者として輝きを放ちました。また、実にイエスを神の子として認めた最初の人物です。福音書にこう書かれています。「その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。わたしはこの方を知らなかった。しかし、水で洗礼を授けるためにわたしをお遣わしになった方が、霊がくだって、ある人にとどまるのを見たら、その人が、聖霊によって洗礼を授ける人であるとわたしに言われた。わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証ししたのである。』」

聖人が亡くなった後、イエスは戒めの意味をこめて明言されました。「はっきり言うておく。およそ女から生まれた者のうち、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。」

信者のみなさん、毎日の生活の中で、神の掟の実現にイエス様がいてくださることを私たちが確信できるよう、洗礼者ヨハネの取り次ぎを願いましょう。アーメン。

